

アメリカよ、今こそ行動を!

- グアンタナモ米軍基地内の収容所を閉鎖すること。
- 米国が行っている秘密拘禁プログラムをすべて中止すること。
- 「テロとの戦い」における被拘禁者を明確な犯罪容疑で公正な裁判にかけるか、そうでなければ直ちに釈放すること。
- 釈放された人びとを、深刻な人権侵害を受ける危険があるいかなる国にも強制的に移送しないこと。
- 被拘禁者に対する拷問によって得られた自白を、裁判で証拠として採用しないこと。
- 国連の専門家が、グアンタナモやその他の拘禁施設に制限なく訪問し、被拘禁者に聞き取りを行うことを許可すること。
- アムネスティなど人権NGOにも、拘禁施設への訪問と被拘禁者への聞き取りを認めること。
- グアンタナモや秘密収容所から釈放された被拘禁者に対して、十分な謝罪と賠償を行うこと。

付属のハガキに必要な事項をご記入の上、署名をして切手を貼り投函してください。

このハガキ付リーフレット(無料)を追加でご希望の方は、アムネスティ東京事務所まで必要部数をお知らせください。送料の実費のみご負担ください。

アムネスティは、一人ひとりの支援によって支えられています。

アムネスティ・インターナショナルは、各国の人権侵害の調査、政策提言、ボランティアによる市民の力に基づいて活動する国際人権団体です。あらゆる政府・機関から独立した立場を貫くため、活動資金は世界中の個人の会費や寄付によって支えられています。ロンドンに国際事務局を置き、世界66カ国に支部を持ちます。日本支部は1970年に設立。

〈入会のご案内〉

- アムネスティ日本のウェブサイトより、ご入会の手続きができます。
- サポーター会員(会費月々1,000円より) / 個人会員(年額12,000円あるいは月々1,000円)からお選びください。
- 会員の方には、年10回ニュースレターが届きます。
- クレジットカードでお支払いの場合、オンライン直接登録が可能です。
- その他の会員制度や銀行口座等からの自動引き落としなどをご利用の場合は、東京事務所までお問い合わせください。

エア・トーチャーのご案内

エア・トーチャー(拷問航空)は、囚人を世界各地にある秘密収容所に移送する、特別なエアラインです。航空運賃は無料! めんどうなお申し込み手続きはいっさいありません。

〈エア・トーチャーのサービスについてのご説明〉

- お座席は、すべて米諜報機関を通してのご予約となります。
- エア・トーチャーのシートベルトは、まったく新しい、これまでにないタイプです。お客様にご不快な姿勢のまま、手錠や足かせをいたします。また、お客様のお顔に袋をかぶせるなどのアメニティもごさいます。さらにボーナス・プレゼントとして、強制的にお薬を飲ませ、失神された状態でのフライトをご用意しております。
- エア・トーチャーは、お客様のプライバシーを尊重しております。私どもは、お客様がどこにいらっしゃるか、お客様に何が起こるか、またいつお戻りになるか、お客様のご家族には一切お知らせいたしません。

詳しい情報は……

www.amnesty.or.jp



社団法人アムネスティ・インターナショナル日本

東京事務所

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-2共同ビル(新錦町)4F
TEL : 03-3518-6777 FAX : 03-3518-6778

大阪事務所

〒552-0021 大阪府大阪市港区築港2-8-24 piaNPO 509
TEL : 06-4395-1313 FAX : 06-4395-1314



Free flights here

拷問への旅にようこそ

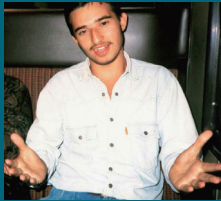


世界の秘密収容所をめぐる夢のフライト

これが「テロとの戦い」？ グアンタナモで無期限の収容

2001年9月11日の同時多発攻撃の直後、米国は「テロとの戦い」を世界に宣言し、同年10月のアフガニスタン攻撃中、パキスタン軍と協力して誰彼かまわず「アルカイダ」として拘束しました。翌年の1月13日、米軍は彼らをキューバのグアンタナモ米軍基地に「テロ」容疑者として移送しました。これまでに世界中から約800人がグアンタナモに送り込まれ、現在は約380人が残されています。彼らは「敵性戦闘員」と呼ばれ、収容の不当性を訴えることも公正な裁判を受けることも許されないまま、無期限に収容されています。

米当局は、グアンタナモの被収容者たちを天井に吊るしたまま暴行する、冷蔵庫のように寒い独房で大音量の音楽をかけて長時間拘禁する、犬をけしかける、裸にする、眠らせないなどの拷問を繰り返しています。これらは米政府によって正式に認められた尋問方法なのです。40人以上がこうした劣悪な収容環境や拷問に耐えかねて自殺を図り、4人が実際に亡くなりました。



グアンタナモ (オマル・テガイェス)

政治難民としてリビアから英国在住していた弁護士オマル・テガイェスは、2002年に米国のアフガニスタン攻撃が始まると同国にいる家族のことを心配し、英国に避難させようとした。しかし、その経由地であるパキスタンで、オマルたちは拘束された。パキスタンでは、無理な姿勢を強いられたり、窒息しそうになるまで水に沈められたりするなどの拷問を受けた。その後、移送されたアフガニスタンでも長時間の拘禁や、裸にして鎖で壁に吊るされるといった拷問を受けた。

その後、9月にグアンタナモへ移送された。法律の知識があるオマルは、弁護士を通じて収容所内での虐待の事実を訴えたため、当局の標的にされた。身体検査では裸にされ、わいせつな行為を受けた。抵抗するとコショウスプレーをかけ、オマルの指を目に突っ込ませられ、片目を失明してしまった。また、窒息しそうになるまで鼻を目にかけて高圧の水を噴射され、さらに独房に8カ月閉じ込められた。彼の家族はパキスタンで釈放されたが、オマルへの期限のない拘禁と残虐な拷問に打ちのめされている。2007年10月現在、オマルはグアンタナモに収容されたままである。



16カ月の拷問旅行 (ムハンマド・アルアサド)

イエメン国籍を持ちタンザニアに住んでいたムハンマド・アルアサドは、2003年に逮捕され、頭に布をかぶせられ、手錠を掛けられて飛行機に乗せられた。どこに連れて行かれたかは分からない。その後も行く先々で独房に収容されては尋問されることを繰り返し、飛行機や車に乗せられて移送された。行き先も告げられないまま少なくとも4カ所に移動したと考えられる。

ある秘密収容所では、尋問担当者以外の人と話すのは禁じられ、独房には窓がまったくなく、陽の光を見ることは一切なかった。

拘束されてから16カ月後、2005年になってアルアサドは秘密収容所から連れ出されたが、イエメンの刑務所で拘禁された。米国が要求すれば釈放するかとのアムネスティの問いに、刑務所の高官は迷わず「釈放する」と答えた。

国際的な釈放要求の末、イエメン政府は2006年3月にアルアサドを釈放した。

秘密のフライト～行き着く先は、拷問？

さらに米国は、世界各地で捕えた人びとを拷問で知られる第三国に秘密裏に移送・収容したり、米中央情報局 (CIA) が運営する秘密収容所に収容したりしています。こうした強制失踪と秘密移送・収容には、欧州諸国を含めアフガニスタン、イラク、ヨルダン、パキスタン、タイ、エジプト、シリア、タンザニアなど少なくとも30カ国が関与しています。中には「テロ」と関係ない人も拘束されています。「テロ」容疑者とされる父親の居場所を知るために、わずか7歳の子どものみが拘禁・尋問されるケースもありました。

2005年にCIAの秘密収容ネットワークが明らかになったとき、欧州評議会と欧州議会は、欧州各国がどのように関与したか調査を開始、直ちに秘密移送と収容を止めるよう2006年に勧告しました。また同年、国連の専門家たちもグアンタナモの被収容者の状況について米政府を厳しく批判し、収容所の閉鎖を勧告しています。